

ふらつき、立ちくらみ

原因を早期に発見し、的確な治療を



医療法人社団 知新会
西村内科脳神経外科病院
理事長
西村 誠一郎氏

日常生活で、ふらつきや立ちくらみを感じることはありませんか？よくあることと簡単に考えがちですが、原因によっては重大な病気の可能性もあるといえます。詳しくお話を聞きました。

—上を見上げると、ふらつきを感じるという人がいるそうですね。

西村 椎骨脳底動脈不全という病気の可能性があります。洗濯物を干したり、美容室で洗髪したり、首を後屈することでふらつきを感じるというものです。転んで頭や体を床などにぶつけることがあり、また小脳梗塞を起こす場合もあり、危険です。

—原因は何ですか？

西村 首の骨である頸椎の変形や、首から脳に行く血管が動脈硬化で狭くなります。すると、頭に血が回らなくなり、ふらつきが起こるというわけです。比較的、年配の女性に多いと言われています。首の骨のレン

トゲン検査や、頸部血管のエコー検査で発見することができますが、通常の脳や血圧、血液の検査では異常が見られないことがほとんどです。

—治療はどのように行いますか？

西村 血管の循環を促進し、動脈硬化を改善する薬を投与します。それと同時に、首を後屈させないことも大切です。日常よく使うものはなるべく高い位置に置かないよう生活指導を行います。症状を進行させないために、首の軽い運動も有効です。

—急に立ち上がると、立ちくらみを感じる場合もありますか？

西村 それは起立性低血圧という

症状です。座ったり、寝ている状態から立ち上がる時、急激に血圧が下がり、立ちくらみやめまいを感じます。このような

人は、通常の血圧検査では正常でも、寝た状態と立った状態では血圧が20mmHg以上の違いがあります。原因は体質や貧血、血圧を下げる内服薬の過剰反応が考えられます。内服薬の反応は、特にアルコールを摂取したときに起こりやすいですね。また、重大な病気の症状の場合もあります。具体的には、心不全や重症の不整脈、パーキンソン病、脊椎小脳変性症といった神経疾患、胃や大腸などの消化管の出血です。

—原因により治療法も異なりますか？

西村 はい。薬が合わないのであれば、薬を変更する必要があります。心不全や不整脈、神経疾患といった病気の場合は、それぞれにあった治療を行います。また、足に血液がたまらないよう、足に圧をかけるストッキングなども着用します。治療法も原因により違うので、まずは原因を判断することが先決です。単なる立ちくらみやめまいと油断せず、早めに専門医を受診し、的確な治療を行いましょう。